

平成19年度東北農政局長賞

『NPO法人田沢湖ふるさとふれあい協議会』 秋田県仙北市

【位置】



【むらづくりの経緯・動機等】

- ・仙北市を含むこの地域は、稲作中心の農業を営んでおり、冬期間は2メートルほどの雪で覆われる豪雪地帯のため、出稼ぎが貴重な収入源であった。
- ・昭和46年の冬期国体での民泊要請がきっかけとなり、複数の農家が民宿を開業。出稼ぎに代わる冬期の貴重な収入源となる。
- ・スキー体験型修学旅行を受け入れ、やがて農業体験受け入れも始める。それが高い評価を得て、東北初のNPO法人化に結実する。

- ・子供達との交流により、住民は改めて農村と農業を見つめ直すことができ、共通の話題・取組をもつことで、地域全体の活性化につながった。
- ・「飾らない、ありのままの姿」で交流することにより信頼関係が生まれ、翌年以降につながる、継続した取組となる。

【推進体制】

- ・協議会を構成し、農業体験受け入れにおいて、農家と旅行業者・学校との調整を図る。
- ・事務局を市役所内に置き、受け入れに伴う事務や産地直送の手配等会員自ら運営する。
- ・同業種の民間企業と連携し、宿泊の有無等によりすみ分けをしなが、受け入れの調整をする。
- ・伝統工芸や郷土料理の講習会を開催し、人材育成やネットワークづくりにも取り組む。

【地区の概要】

項目	内容	
規模	その他	(25集落)
性格	山間農業地域	
農家率	16	%
(内訳)	総世帯数	2,437 戸
	農家数	392 戸
販売農家数	285	戸
(内訳)	専業農家	31 戸
	I兼農家	44 戸
	II兼農家	210 戸
主要作物	水稻	516 (百万円)
(産出額)	野菜	123 (百万円)
(市全体)	大豆	15 (百万円)
農用地の状況	耕地計	1,282 ha
(内訳)	田	747 ha
	畑	121 ha
	樹園地	— ha
	牧草地	414 ha
	耕地率	1.4 %
	1戸当たり面積	2.2 ha



田植え体験

【生産面への寄与状況】

・農業体験を受け入れたことにより、農家の意識に変化が生まれ、安全・安心を求め減農薬栽培に取り組んだり、体験メニューを増やすため新規作物への取組を始める等意欲的な姿勢が見られるようになった。

・農業体験に感動した生徒が、帰宅後、美味しかった農産物の話を家族に伝えることにより、産地直売の申し込みが

入るようになり、体験料収入以外の面においても経営の一部門となっている。

・受け入れ農家は、良質な農作物を作りたいという意識が高まり、それを生み出す経営基盤を見直すことにより、認定農業者や家族経営協定、さらに大規模集落営農組織が生まれた。

・交流体験が後継者定着のきっかけとなり、二代目が受け入れの中心となる農家も見られる。協議会では、地元の子供達への農作業体験の指導をする等後継者育成にも取り組む。



農家民宿

【生活・環境整備面への寄与状況】

・子供達を気持ちよく迎えたいという気持ちが、家や田畑、周辺道路等環境の美化・保全へとつながっている。

・体験を終えた子供達が、文通したり再度訪れるケースが多い。自然や農業を通して共有した時間が「心」の交流へとつながり、都市と農村の交流のモデルケースとなっている。

・受け入れ農家の子供が、訪れた子供達とふれあうことで、受け入れの喜びや農業の大切さを感じ、後継者となるきっかけになった事例もある。

・首都圏からの移住や、訪れた子供達が成人したのち農家に嫁いできた事例もあり、後継者育成や定住に大きな役割を果たしている。



農作業体験